

深沢地区防災計画

【平成29年作成】

深沢地区

【深沢地区防災塾参加者団体】

深友会	東深沢町会
交和会	深沢三友会
新町公民会	桜新町親和会
都営深沢アパート自治会	桜新町町会
駒沢三丁目町会	駒沢町会
桜新町商店街振興組合	深沢中央商店街振興組合
玉川消防団第6分団	玉川消防団第10分団
深沢小学校PTA	東深沢小学校PTA
深沢中学校PTA	東深沢中学校PTA
日本体育大学	日赤奉仕団深沢分団
玉川地域社会福祉協議会	深沢地区社会福祉協議会
深沢地区民生委員児童委員協議会	身近なまちづくり推進協議会
深沢あんしんすこやかセンター	新町保育園

目 次

趣旨	1
I 深沢地区の特性	2
1. 自然特性	2
2. 社会特性	5
3. 被害想定	8
4. 防災資源	19
II 各団体の防災活動～現在の取り組み状況～	25
1. 集計表	25
III 地区における課題と今後の取り組み	31
1. 深沢地区における課題	31
2. 今後の取り組み	33

本 編

趣旨

我が国は、これまで多くの自然災害に見舞われてきたが、近年は、首都直下地震、南海トラフ地震等の大規模地震の発生が懸念される中、安心・安全に関する地域住民の関心が高まってきている。

このような状況を踏まえ、「災害対策基本法等の一部を改正する法律」（平成25年法律第54号）では、「市町村の住民から地区防災計画を提案できることとすること」が明記され、区では、平成29年1月修正（予定）の『世田谷区地域防災計画』に反映させることを想定して、地区防災計画の策定を進めることとなった。

地区防災計画の策定に向けては、東京都及び世田谷区の地域防災計画、被害想定等に基づき、地区の被害想定を作成し、地区住民に説明しながら進めていくことが不可欠であり、住民から出された意見等については、適宜世田谷区地域防災計画の記載に反映させる作業も必須となる。

本計画は、住民の意見をもとに、住民自治の強化と地区防災力の向上のため、作成されたものである。

I 深沢地区の特性

1. 自然特性

1.1 地区の位置

深沢地区は世田谷区の東南に位置し、その東側は目黒区に接している。全体としては、ほぼ平坦で静かな住宅街であり、畑の残っている所もある。駒沢オリンピック公園や呑川緑道・親水公園などの公園や緑地も多く、自然に恵まれ落ち着いた住宅地である。



図-1：玉川地域の各地区

1.2 地区の面積・エリア

深沢地区の面積及びエリアは、以下、表のとおりになっている。エリアは、図-2に対応している。

まちづくりセンターエリア (町名)	駒沢3～5丁目、駒沢公園、桜新町1～2丁目、新町1～3丁目、深沢1～8丁目
面積	3.419平方キロメートル

【桜新町町会】

区域 桜新町1丁目13～27・37～41番
桜新町2丁目4～31番
会員 1,200世帯
※住民基本台帳登録
2,632世帯、4,911人

【新町公民会】

区域 新町1丁目3～14・18～24・32～35番
新町2丁目1～29・32～38番
新町3丁目全域
桜新町1丁目8～13番
桜新町2丁目1～4番
会員 1,700世帯
※住民基本台帳登録
4,284世帯、8,158人

【駒沢三丁目町会】

区域 駒沢3丁目全域
会員 750世帯
※住民基本台帳登録
1,565世帯、2,782人

【桜新町親和会】

区域 新町1丁目17・18・
24-1～8、24-
19・26～31・36番
2丁目30・31番
桜新町1丁目1～7・8
-1～7・8-21～2
2・25・27～36番
深沢7丁目4～13・23
～25番、
深沢8丁目全域
会員 1050世帯
※住民基本台帳登録
2,138世帯、4,733人

【駒沢町会】

区域 駒沢4丁目全域
会員 800世帯
※住民基本台帳登録
1,867世帯、3,486人

【交和会】

区域 深沢4丁目8～36番
駒沢5丁目全域
会員 950世帯
※住民基本台帳登録
2,229世帯、4,877人

【都営深沢アパート自治会】

区域 新町1丁目15番
会員 119世帯
※住民基本台帳登録
119世帯、222人

【東深沢町会】

区域 深沢3丁目1～5、
7～25番
会員 500世帯
※住民基本台帳登録
600世帯、1,394人

【深友会】

区域 深沢1丁目全域
深沢2丁目2～19番
深沢3丁目6番
深沢4丁目1～7番
会員 1,500世帯
※住民基本台帳登録
2,889世帯、6,331人

【深沢三友会】

区域 新町1丁目1・2・16番
深沢5・6丁目全域
深沢7丁目1・2・14～22番
会員 1,540世帯
※住民基本台帳登録
3,453世帯、7,693人

図-2：深沢地区のエリア

1.3 標高・急傾斜地

深沢地区は、図-3のように世田谷区全体の中でも比較的標高が高く、急傾斜地も少ないことがわかる。急傾斜地については、17ページの「急傾斜地等の斜面崩壊危険度分布」に詳細な分布を出している。

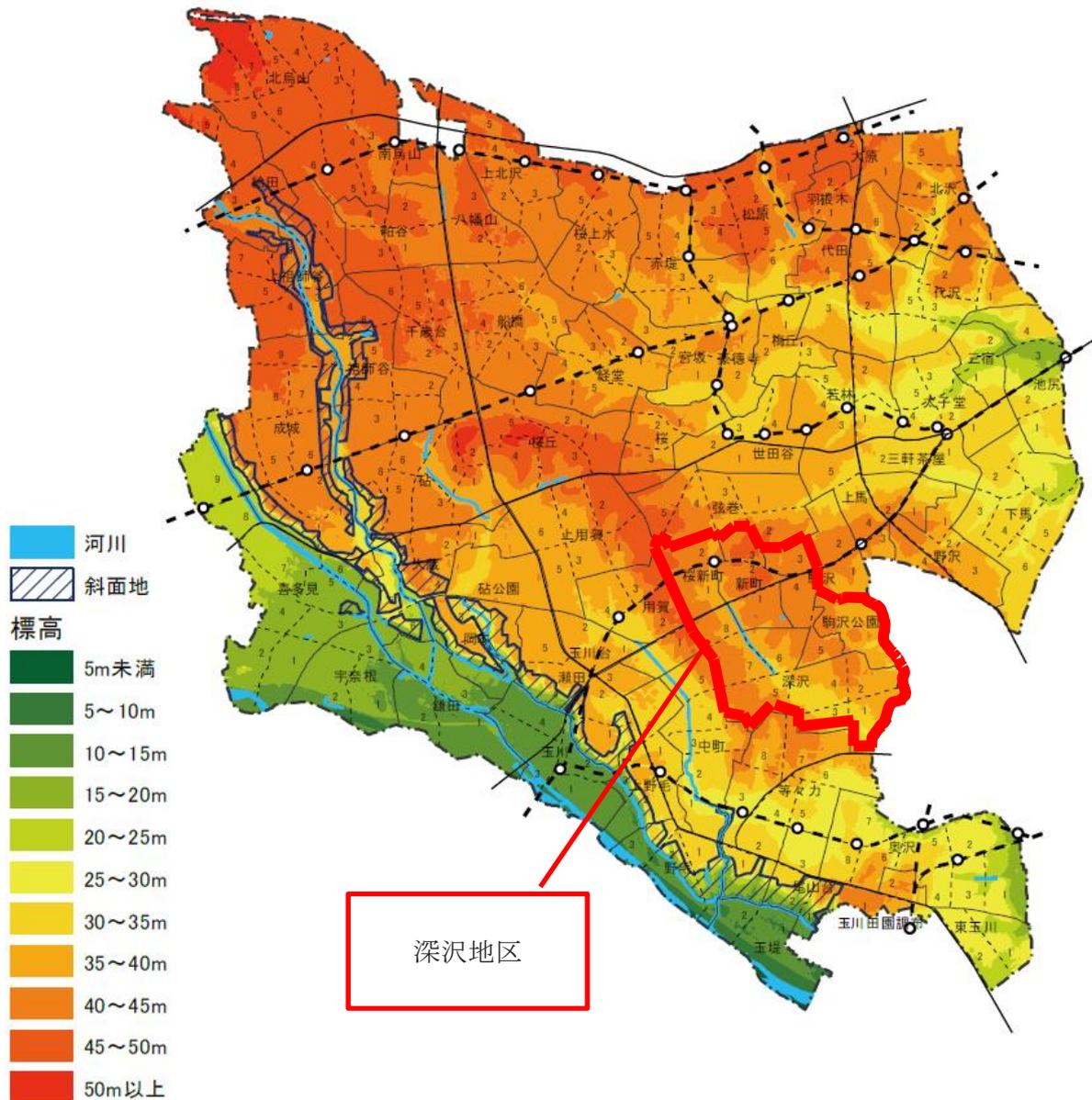


図-3：世田谷区の標高・傾斜地・河川
(引用：世田谷区のあらまし)

2. 社会特性

駒澤大学、日本体育大学、都立園芸高校、都立深沢高校などの文教施設が多く、若い世代の賑わいが静かな地区に活気をもたらすとともに、深沢管内の諸事業に学生、生徒がボランティアとして参加し、地域との交流を深めている。また、小・中学校もあいさつ運動や古着・古布回収のボランティア参加などを行っており、地域との関わりは深い。

地区内の交通機関は、田園都市線「桜新町」が唯一の鉄道駅であり、地区内の移動手段はバスが中心である。

2.1 人口・世帯数

深沢地区、玉川地域、世田谷区の人口は、以下、表のとおり。男性は、18歳未満と65歳以上が同じ割合であるのに対して、女性は、65歳以上の占める割合が高いことがわかる。

(平成28年4月1日現在)

人口（深沢地区） （男、女、18歳未満、65歳以上）	深沢地区＝47,464人（5.3%）
	男：22,405人（100%） （18歳未満男：3,776人（16.9%）） （65歳以上男：3,918人（17.5%））
人口（玉川地域） （男、女、18歳未満、65歳以上）	女：25,059人（100%） （18歳未満女：3,594人（14.3%）） （65歳以上女：5,329人（21.3%））
	玉川地域＝219,491人（24.7%） 男：102,814人（100%） （18歳未満男：17,037人（16.6%）） （65歳以上男：18,567人（18.1%））
人口（世田谷区全体） （男、女、18歳未満、65歳以上）	女：116,677人（100%） （18歳未満女：16,111人（13.8%）） （65歳以上女：25,305人（21.7%））
	区全域＝887,994人（100%） 男：422,316人（100%） （18歳未満男：63,971人（15.1%）） （65歳以上男：74,242人（17.6%））
世帯数（深沢地区）	女：465,678人（100%） （18歳未満女：60,040人（12.9%）） （65歳以上女：104,184人（22.4%））
	23,037世帯
	区全域：464,939世帯 玉川地域：108,571世帯

2.2 町会・自治会、商店街

深沢地区の町会・自治会及び、商店街の詳細については、以下、表のとおり。

町会・自治会	10 団体（深友会・東深沢町会・交和会・深沢三友会・新町公民会・桜新町親和会・都営深沢アパート自治会・桜新町町会・駒沢三丁目町会・駒沢町会）
区全体	197 団体
商店街	振興組合：3（桜新町商店街振興組合・東深沢商店街振興組合・深沢中央商店街振興組合） 商店会：3（新町新和会・深一会・深沢坂上商店会）
区全体	134 団体

※区全体の団体数については、平成28年8月1日現在のもの

2.3 公共施設

深沢地区の公共施設の詳細については、以下、表のとおり。

項目	施設名
まちづくりセンター	深沢まちづくりセンター（駒沢 4-33）
区民センター	深沢区民センター（深沢 4-33）
地区会館	新町地区会館（新町 2 - 21）、深沢地区会館（深沢 1-14） 駒沢地区会館（駒沢 3 - 13）
区民集会所・地区集会所	桜新町区民集会所（桜新町 1-30）
保育園（公立・私立）	公立園：新町保育園（駒沢 4-3）、深沢保育園（深沢 5-16）
	私立園：いずみ保育園（深沢 1-14）、駒沢どろんこ保育園（深沢 2-19）、さくらしんまち保育園（桜新町 2-29）、さくらしんまち保育園分園びっころ保育園（桜新町 2-13）、せたがやこころ保育園（深沢 4-25）、ふかさわミル保育園（深沢 1-32）、ベネッセ桜新町保育園（桜新町 2-12）、めぐみ保育園（深沢 3-13）、用賀なのはな保育園深沢分園（新町 1-3）、わらべうた桜新町保育園（桜新町 1-1、桜新町 1-32）
保育室	さくらキッズ（新町 3-21）
認証保育所	ベビールーム桜新町（桜新町 2-9）、ポピンズナーサリースクール桜新町（桜新町 2-8）
子ども・子育て支援	子育てステーション桜新町（桜新町 2-8） 産後ケアセンター桜新町（桜新町 2-29）
幼稚園（公立・私立）	区立園：三島幼稚園（深沢 5-11）
	私立園：愛隣幼稚園（新町 2-7）、麻生学園深沢幼稚園（深沢 3-29）、さくら幼稚園（新町 3-21）、世田谷聖母幼稚園（深沢 8-13）、日体幼稚園（深沢 8-4）

項目	施設名
児童館	深沢児童館（深沢 4-33）、新町児童館（新町 2-23）
図書館	深沢図書館（深沢 4-33）
小・中学校・高等学校	区立小：深沢小学校（新町 1-4）、東深沢小学校（深沢 3-7） 区立中：深沢中学校（新町 1-26）、東深沢中学校（深沢 4-18）
	国立小：東京学芸大学附属世田谷小学校（深沢 4-10） 国立中：東京学芸大学附属世田谷中学校（深沢 4-3）
	都立校：園芸高校（深沢 5-38）、深沢高校（深沢 7-3）
大学	私立大学：日本体育大学東京・世田谷キャンパス（深沢 7-1）
公園、余暇施設、文化・教育施設	駒沢公園（駒沢公園 1-1）、駒沢はらっぱプレーパーク（駒沢 3-21）、長谷川町子美術館（桜新町 1-30）
高齢者施設	深沢あんしんすこやかセンター（駒沢 4-33）、介護老人保健施設ふかさわ（深沢 1-9）、認知症対応型グループホームノテ深沢（深沢 7-10）、小規模多機能型居宅介護ノテ深沢（深沢 7-10）
障害者施設	わんぱくクラブ駒沢（新町 1-3）、アディクションリハビリテーションセンターすとおりの（桜新町 1-8）、アプリ児童デイサービス駒沢（駒沢 3-14）、子育てステーション桜新町発達相談室（桜新町 2-8）、発達支援つむぎ駒沢ルーム（深沢 2-19）

3. 被害想定

3.1 使用データ

本被害想定 of 分布図を作成するに当たっては、東京都の首都直下地震の想定データ、内閣府の地震防災マップ建物被害のデータ及び世田谷区防災マップのデータを使用した。

以下の2項目については、内閣府のデータを使用。

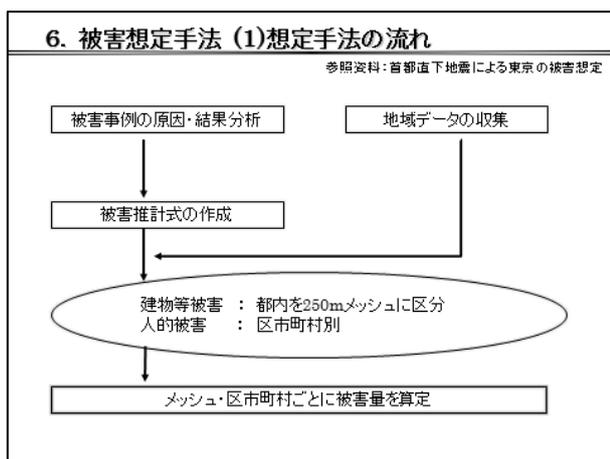
- (2)建物全壊棟数率の分布
- (7)建物を原因とする死者数

以下の5項目については、東京都のデータを使用。

- (1)震度分布
- (3)焼失棟数（250mメッシュ）冬18時、風速8m/s
- (4)焼失棟数（250mメッシュ）冬5時、風速8m/s
- (5)液状化危険度分布
- (6)急傾斜地等の斜面崩壊危険度分布

3.2 被害想定手法

東京都の首都直下地震の想定は、大きく分けて4つある。荒川河口付近を震源とする「東京湾北部地震」、「多摩直下地震」、「元禄型関東地震」、「立川断層帯地震」である。今回は、世田谷区の地域防災計画がベースとしている、被害想定 of 最も大きな「東京湾北部地震」で被害想定 of 分布図を作成した。



- ・被害想定 of 数値は、世田谷区 of 想定ではあるが、管内を現地調査し、くまなく回って積み上げた想定ではない。あくまで他地域の過去の災害事例から推定式を作り、間接的に求めたものである。
- ・世田谷区 of 地域データ（建築年数）を収集し、作った推定式に当てはめている。
- ・地域データとは、固定資産管理台帳の建築年数や木造・非木造ごとに出したものである。

- ・家屋の建築年数、特に建築基準が変わった前後での比較をし、「旧」・「中」・「新」 of データ区分になっている。古ければ倒れやすいという単純な想定であり、よく言われている昭和57年の耐震基準を満たしているかどうかということである。
- ・NHK of 記者の方から、阪神淡路大震災の後、報道機関が神戸 of 調査結果のうち、十分に報道で伝えきれなかったことがあったと聞いている。それは、「昭和57年の耐震基準を満

たしていた建物は90%大丈夫だった」という調査結果を、教訓として十分に発信できなかったということであった。

- ・推定式に基づいた被害想定を250メートルメッシュで区切り、各地区、玉川地域とメッシュ単位に積み上げて、地区・地域の被害想定を設定している。
- ・被害想定の流れは、想定条件（季節等の条件）→震度→地盤の揺れやすさ→建物被害・火災被害・ライフライン（社会基盤）の被害→人的被害の順である。
- ・構造別揺れの被害想定の特徴は、データのばらつきが大きい築年数と震災時の倒壊被害の関係グラフから推定線を求め、そこに固定資産台帳のデータを当てはめている。そのため、粗い結果となっている。
- ・液状化も、築年数から液状化の危険性を出している。ここでPLとなっているのは、揺れやすさの指標である。震源から地表までの地層を区切り、地下水位、地盤の粒度の関係から出されている。0～5は、危険度が低い液状化の可能性はある。5～15は、やや高いという指標を示している。

3.3 前提条件

被害想定は、時間帯によって人々の滞留特性は大きく異なるため、地震の発生時刻が変わると人的被害の発生する様相も変化する。

また、時間帯や季節によって火気器具等の使用状況が異なるため、火災の出火件数も変化すると考えられる。このため、想定される被害が異なる3種類の特徴的なシーン（季節・時刻・風速）が想定されている。

1 想定

項目	内容			
種類	東京都湾北部地震	多摩直下地震 (プレート境界多摩地震)	元禄型関東地震	立川断層帯地震
震源	東京湾北部	東京都多摩地域	神奈川県西部	東京都多摩地域
規模	マグニチュード(以下「M」と表記する) 7.3		M8.2	M7.4
震源の深さ	約20km~35km		約0km~30km	約2km~20km

2 気象条件等

季節・時刻・風速	想定される被害
冬の朝5時 風速 4m/秒 8m/秒	○兵庫県南部地震と同じ発生時間 ○多くの人々が自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による圧死者が発生する危険性が高い。 ○オフィスや繁華街の屋内外滞留者や、鉄道・道路利用者は少ない。
冬の昼12時 風速	○オフィス、繁華街、映画館、テーマパーク等に多数の滞留者が集中しており、店舗等の倒壊、落下物等による被害拡大の危険性が高い。

季節・時刻・風速	想定される被害
4 m/秒 8 m/秒	○住宅内滞留者数は、1日の中で最も少ない。
冬の夕18時 風速 4 m/秒 8 m/秒	○火気器具利用が最も多いと考えられる時間帯で、これらを原因とする出火数が最も多くなるケース ○オフィスや繁華街周辺、ターミナル駅では、帰宅、飲食のため多数の人が滞留 ○ビル倒壊や落下物等により被災する危険性が高い。 ○鉄道、道路もほぼラッシュ時に近い状況で人的被害や交通機能支障による影響拡大の危険性が高い。

参考：「東京都防災 HP」<http://www.bousai.metro.tokyo.jp/taisaku/1000902>

3.4 被害想定一覧

深沢地区の被害想定については、次ページのとおりである。

● 首都直下地震の被害想定

想定項目		首都直下(平成24年想定)								
震源・規模		東京湾北部 M7.3								
時期及び時刻		冬の夕方18時/冬の朝5時								
風速		8m/秒								
対象範囲		東京都全体		世田谷区		玉川地域		深沢地区		
震度	6強地域面積比率	24.4%		66.8%		92.6%		100%		
	6弱地域面積比率	29.0%		33.2%		7.4%		0%		
人的被害	死者	9,641人		655人		94人		18人		
	建物被害・屋内収容物	冬の夕方18時	7,649人		440人		-		-	
		冬の朝5時	1,737人		229人		88人		17人	
	原因別	冬の夕方18時	6,927人		362人		-		-	
		冬の朝5時	76人		3人		-		-	
		冬の夕方18時	74人		4人		-		-	
		冬の朝5時	4,081人		411人		6人		1人	
	内訳	冬の夕方18時	540人		47人		-		-	
		冬の朝5時	103人		26人		-		-	
		冬の夕方18時	103人		28人		-		-	
冬の朝5時		4人		1人		-		-		
落下物	冬の朝5時	4人		1人		-		-		
負傷者 (うち重傷者)	冬の夕方18時	147,611人 (21,893人)		7,449人 (1,366人)		-		-		
	冬の朝5時	138,804人 (18,073人)		8,425人 (1,181人)		-		-		
建物被害	ゆれ等による全壊	116,224棟		6,074棟		2,350棟		437棟		
	火災による全焼 (全壊建物を含まない)	201,249棟		22,455棟		4,492棟		596棟		
ライフライン被害	電力(停電率、火災を考慮する)	20,074棟		1,772棟		369棟		48棟		
	通信(電話の不通率)	16.9%		19.4%		-		-		
	ガス(都市ガスの供給停止率)	10.1%		12.7%		-		-		
	上水道(断水率、1日目)	17.9%		1.2%		-		-		
	下水道(管きよ被害率)	34.8%		30.8%		-		-		
	帰宅困難者数(人)	22.3%		24.7%		-		-		
その他	1日後の自宅外避難者数 (うち避難所生活者数)	4,714,314人		168,047人		-		-		
	冬の夕方18時	3,385,489人 (2,593,650人)		242,390人 (157,553人)		-		-		
	冬の朝5時	2,656,898人 (2,505,680人)		153,833人 (172,317人)		-		-		
エレベーター閉じ込め台数	冬の夕方18時	7,473台		269台		-		-		
	冬の朝5時	7,008台		225台		-		-		

※端数処理: 深沢の人的被害想定が対象

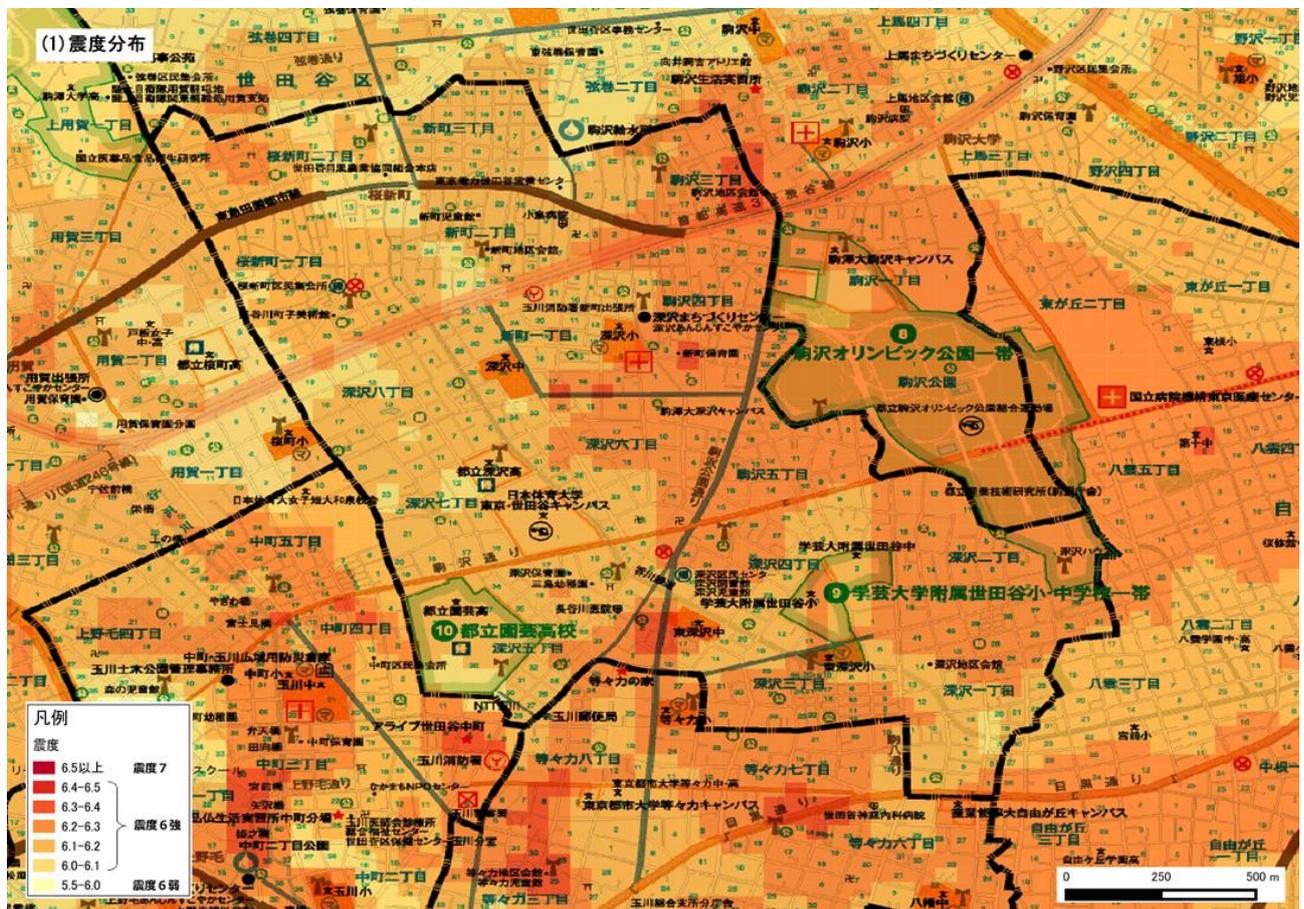
3.5 被害想定 の 分布 図

- 深沢地区では、震度分布の想定が周辺地域より大きい地区や、火災延焼、倒壊の危険が高く、死者数の想定が増加する地区が分布している。これらの地区は、「揺れによる建物倒壊」→「倒壊家屋からの出火」の危険があるため、死者が増える想定になっている。例としては、深沢まちづくりセンターのある駒沢四丁目や深沢中学校、東深沢中学校のある新町一丁目、深沢四丁目などがある。
- 火災延焼においては、冬の18時の想定で深沢小学校、保育園等の施設、深沢まちづくりセンターのある新町一丁目、深沢五丁目、駒沢四丁目では「20-50」棟の家屋の焼失が想定されている。避難の際には、避難先として安全かどうかの見極めを要する。
- 深沢地区では、幼稚園、保育園、小中学校等が多く点在している。地域防災の担い手が少ない昼間に発災した時の対応をどう行うかを考える必要がある。
- 地区内には桜新町駅や玉川通りなど、避難所への避難や傷病者、要配慮者の移動が必要な場合に、渋滞の発生などにより障害となるおそれのある交通施設がある。

(1) 震度分布

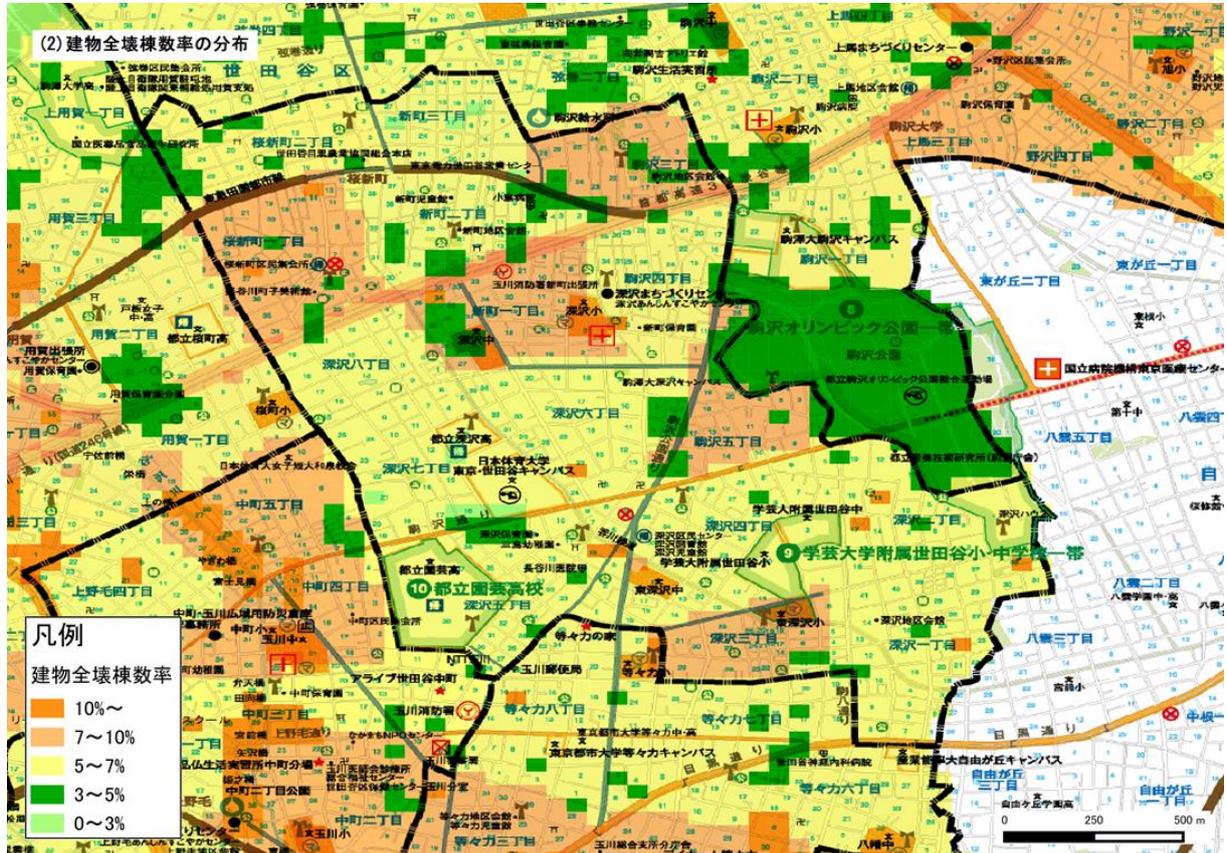
深沢地区は、全域的に震度6強のエリアがある。

特に駒沢オリンピック公園一帯を中心として、駒沢三丁目～五丁目、深沢二丁目にかけて、震度6強の中でも特に揺れの大きなエリアがある。



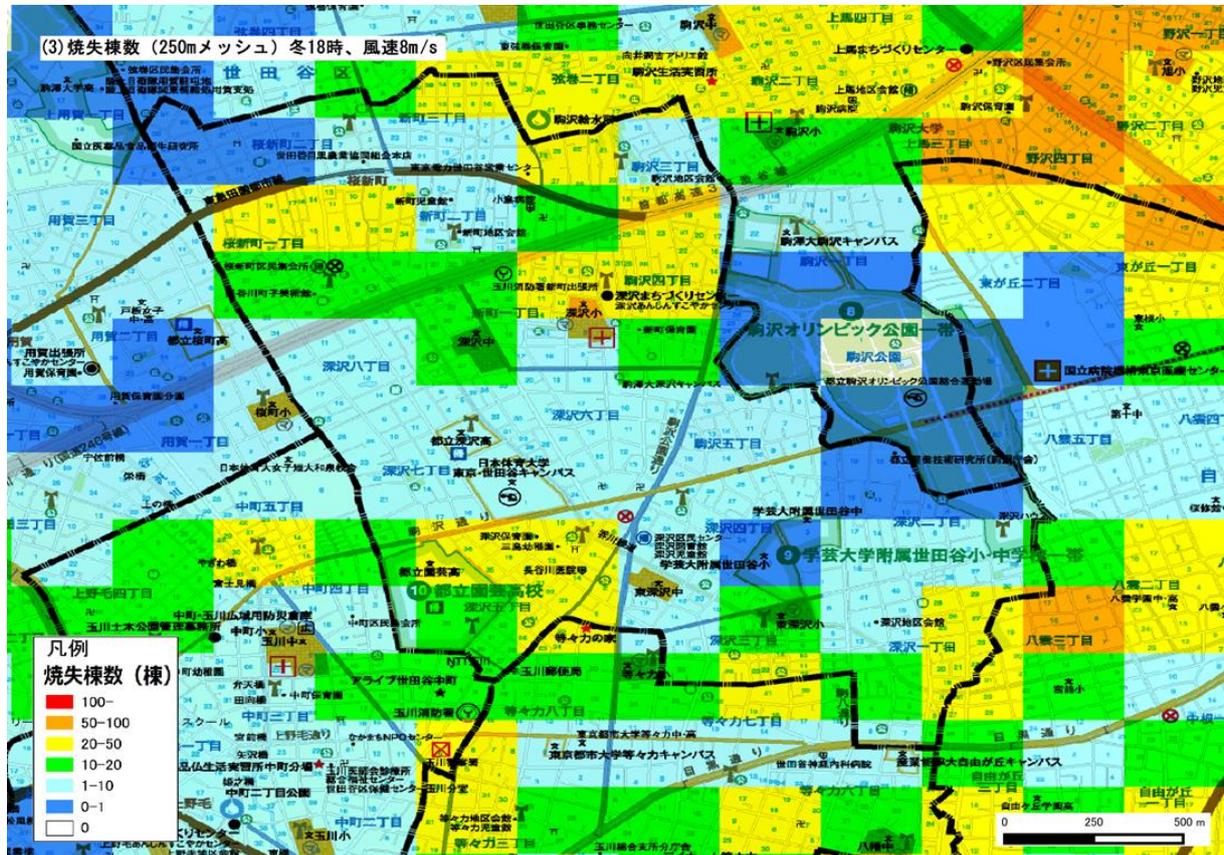
(2) 建物全壊棟数率の分布

深沢地区は、全域的に全壊棟数率「5%～7%」のエリアが広く分布しているが、桜新町一丁目、新町一丁目、駒沢二丁目、駒沢五丁目、深沢三丁目で建物全壊棟数率「7%～10%」のエリアが広く分布している。



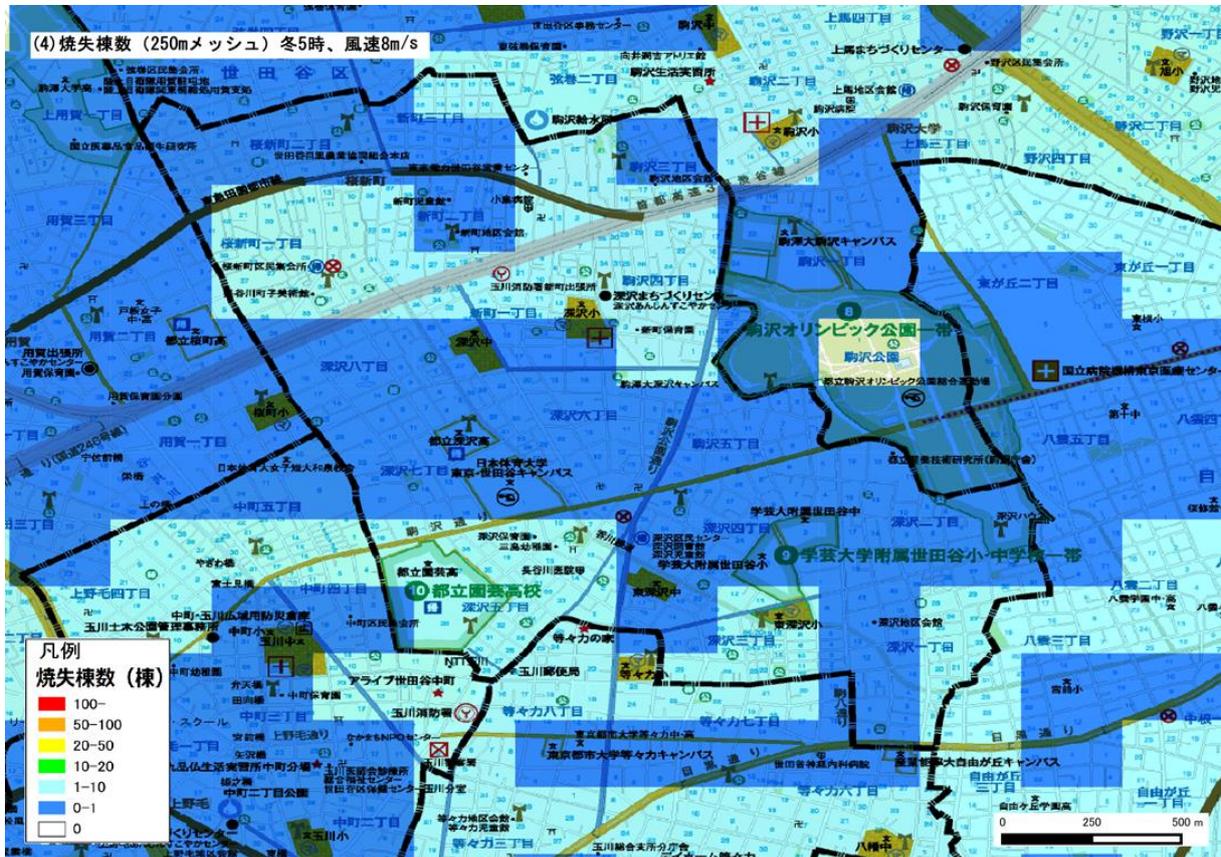
(3) 焼失棟数（250メートルメッシュ）冬18時、風速8メートル毎秒

深沢地区では、深沢六丁目～八丁目、駒沢五丁目にかけて、焼失棟数「0-1」棟、「1-10」棟と想定されている地域が多いが、桜新町一丁目、駒沢四丁目、深沢五丁目では、「20-50」棟の家屋が焼失する想定である。



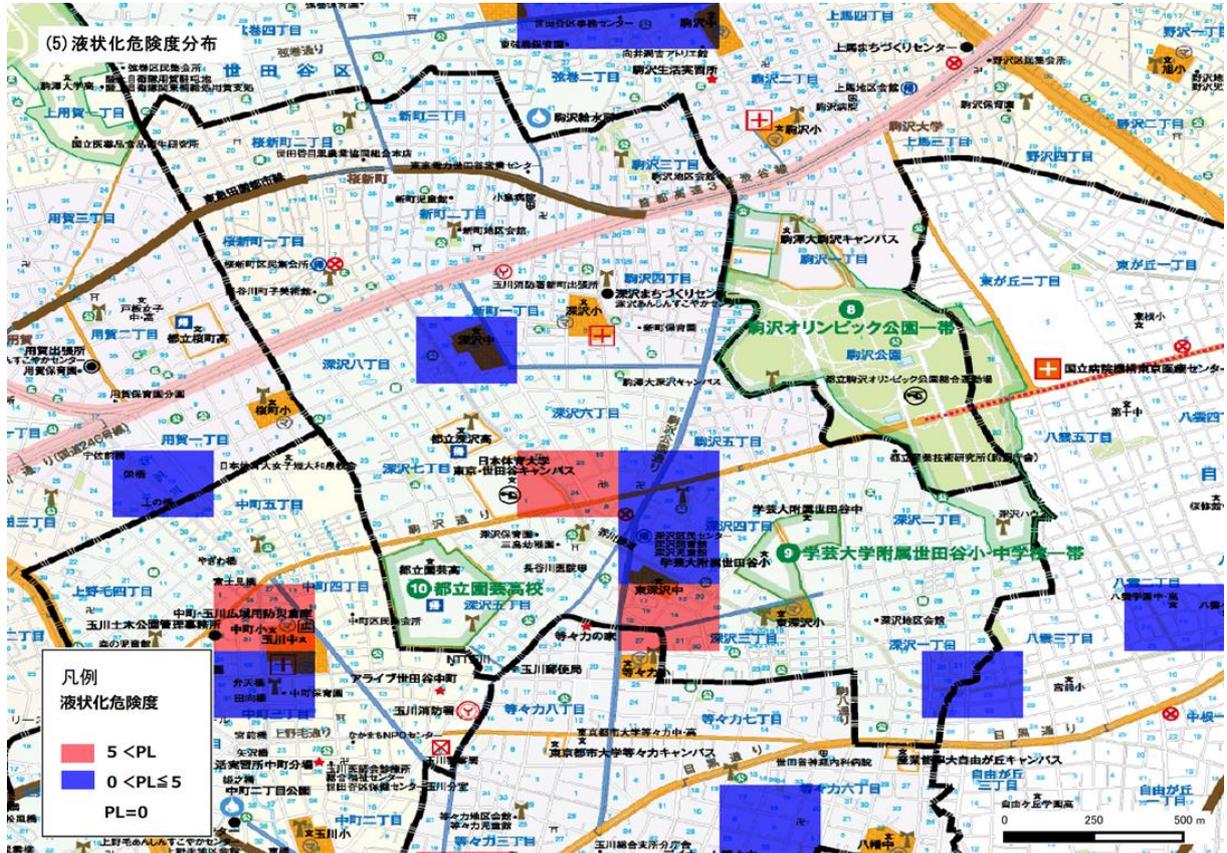
(4) 焼失棟数（250メートルメッシュ）冬5時、風速8メートル毎秒

深沢地区は、ほとんどのエリアが焼失棟数「0-1」棟、「1-10」棟の想定で目立った被害は想定されていない。



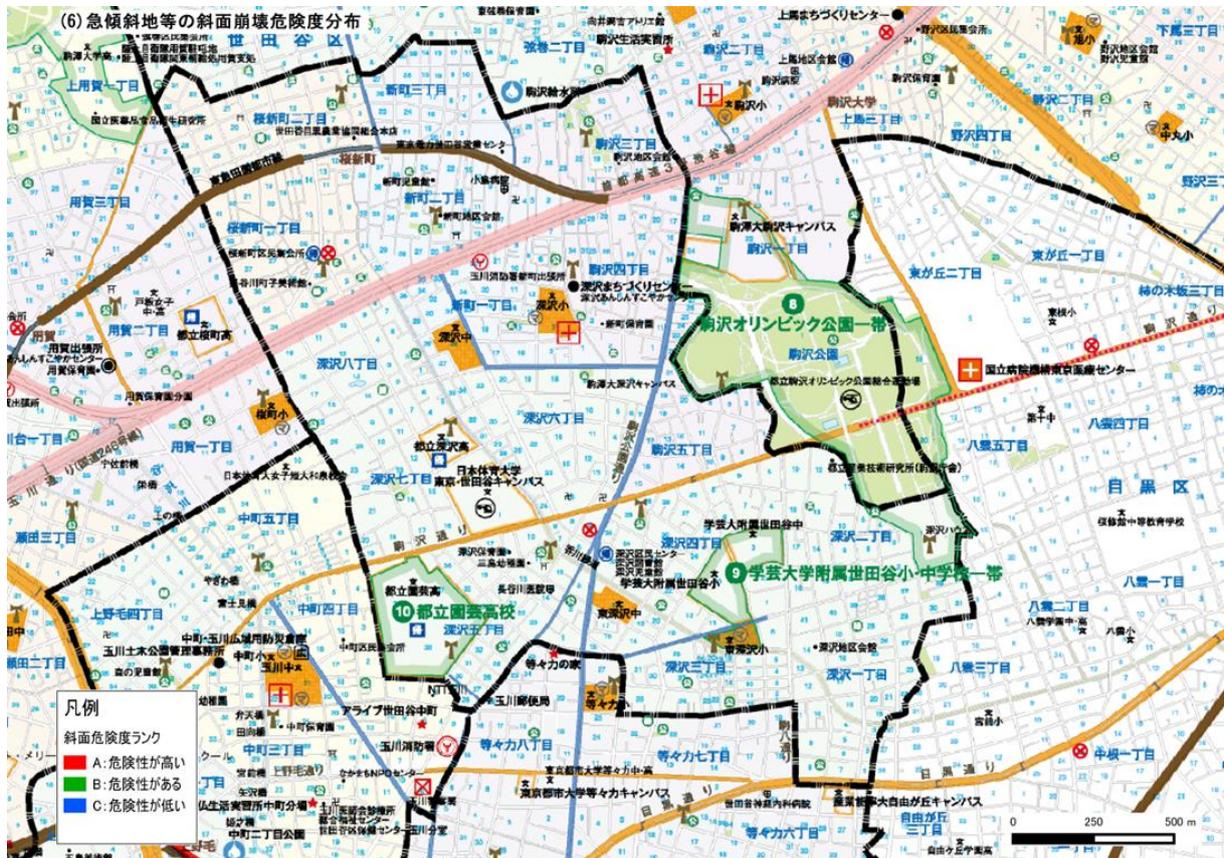
(5) 液状化危険度分布

深沢地区では、駒沢四丁目、駒沢五丁目で液状化の危険度が高いと想定されているが、それ以外に深沢六丁目、深沢七丁目、深沢三丁目で液状化の危険が特に高いと想定されている。



(6) 急傾斜地等の斜面崩壊危険度分布

深沢地区では、ほとんどのエリアで斜面崩壊による危険性は少ないと想定されている。



(7) 建物を原因とする死者数

深沢地区では、新町一丁目、新町二丁目、深沢四丁目～六丁目にかけて死者が多く、特に桜新町一丁目、深沢一丁目、深沢三丁目においては、5名以上の死者が発生すると想定されている。

